

〈解答〉

① 1 ① てつがく ② 基礎 ③ 傷 ④ こうい

2 イ

3 下一段活用・連用形(両解)

4 A 3 B E

② 1 ① a 「例」行う b 「例」並べる

2 ウ ↓ ア ↓ エ ↓ イ

配点 ① 3、②は各2点 他は各1点 15点満点

〈解説〉

① 「哲学」とは「世界・人生などの根本原理を追求する学問」のこと。「哲」には「さとい」「かしこい」などの意味があり、「哲人(知恵がすぐれ、見識高く、道理に通じた人)」「才哲(すぐれた才能と知恵があり、道理に明るいこと)」などの熟語がある。

② 「基礎」は、「ある物事を成り立たせる大もとの部分」という意味。「礎」の訓読みは「いしずえ」である。

③ 「傷」の音読みは「シヨウ」であり、「傷者(怪我を負っている人)」「軽傷(程度の軽い怪我)」などの熟語がある。

④ 「行為」は、「ある意思をもってするおこない」という意味。「為」の訓読みは「ため」である。

2 「選択」は、「選(えらぶ、よりわけると)」と「択(えらぶ、えらびとる)」という似た意味を持つ漢字が組み合わさってできた熟語。構成が同じ熟語はイ「創造」である。

3 「ない」を付けると直前が「エ」段の音になるため、「伝え」が下一段活用の動詞だとわかる。また、「伝え」のあとに、動詞の連用形に接続する、希望の助動詞「たい」があることから、「伝え」が、下一段活用の動詞「伝える」の連用形であるとわかる。

4 活用する自立語とは、「動詞」「形容詞」「形容動詞」であり、「きちんと受け取る」というのは、なかなか難しいものだ」の中にある活用する自立語は、「受け取る」「いう」「難しい」の3つである。「きちんと」の品詞は副詞。副詞とは、他の言葉の意味をくわしく説明する品詞である。

② 1 もともと日本で使われていたことばを和語といい、それに対して、中国から伝わった語や、それをもとに日本で作られた語を漢語という。和語は漢語に比べてやわらかい印象を聞く人に与えることができる。

② b の後に、「和語を使うことで」とあるので、「開催(する)」「陳列(する)」「をそれぞれ和語に言いかえるとよい。」

の直前に、「二つのことを学びました」とあることから、「一つは」という書き出しから始まるウが最初に入る。続いて地域の人を大切に行っていることの例を挙げているアが入り、「休憩できる場所がほしい」という地域の人の意見を受けて、商店街の中にベンチを数か所設置して対応をしたと考えられるためエが続く。最後にもうひとつの学んだこととしてイの内容が入ると考えられる。